

2022年の活動を通して—ボランティアの声

日 々、子どもたちの様々な「声」に驚かされています。初めは知らない「声」との会話に緊張したものの、回を重ねることで徐々に落ち着きました。それでも一言目から緊張せざるを得ない電話を受けることや言葉を交わしたのに会話できなかったような気持ちになることがあります。受話器を置いて、支え手の方との会話の中で「見つかる」ことが何度もありました。なかでも電話が鳴って受話器を上げる前の私の気持ちについて考えたことは一人では辿りつかず深まっているように感じます。

か 細い声の子どもの声を受話器から聴こえてきました。どうやらひとりで部屋に居るのが寂しいらしく、話し相手を求めているようでした。じゃあ、寂しさを埋める為に“今”楽しいことに思いを巡らせることで少しは安心するかもしれない。しばらくはその子の最近、楽しかったことについて話していたものの、やがてポツリポツリと過去に経験した出来事を自分から語り出しました。その内容は痛々しく辛いだけけれどその子が淡々と語るから私も淡々と相槌を打ち、が波のように繰り返され。もしかしたら子どもにとって自分の好きなタイミングで自分の思いを吐き出せる場所がココなのかもしれない。答えを求めている子ばかりじゃないんだと気づかされる一本の電話でした。

昨 年もいろんなことがありました。それぞれの受け手、電話の向こうの子どもたち、関わる人みんなに、一年分のいろんな日と、いろんな気持ちがあったらと思う。そんな毎日の中で時間を作って電話を受けに通う受け手の姿を思い返すと、胸が少しジーンと熱くなります。受け手は、電話を通して子どもにも出会うと同時に、今の自分自身にも出会うことがしばしばあります。落ち込む日もあるかもしれませんが、相手に大切に關わりとうるときに起こることだから、そんな自分も丸ごと大事に感じられるときがあればいいと思います。受け手を支える支え手なんて役割ですが、皆さんの力を支えに一年やってきました。また一年、ご一緒できたら嬉しいです。



講座を修了して—26期受講者の声

自 身の子育てを通して子どもの心や遊びに興味をもつようになり、最初は聴講するだけのつもりでチャイルドラインの受け手養成公開講座を受講しました。講師の先生方のお話は深く考えさせられたり、新しい発見があったりと学びの多いものとなりました。そして支え手事務局のみなさんの人柄や、活動の様子に触れるうちに受け手をやってみたいと思うようになりました。講座を受けて良かったと思うことのひとつは、ワークで自分の子ども時代を振り返り、受講者同士が共有していくうちに、回を重ねるごとに親密な気持ちになったことです。これから受け手として一緒に協力し合い支えあえる仲間ができたことは、私にとって本当に嬉しく有難いことだと実感しています。

講 義が中心の受け手養成公開講座では、子どもを取り巻く環境や社会の変化や、今を生きている子どもたちが直面している問題について学び、話を聴くにあたっての基礎知識を得ることができました。専修講座はロールプレイ等のワーク形式の講座が中心で、自分の子ども時代を思い返しながらか、より実践的に学ぶことができました。他の受講者の方と話し合う中で自分にはない考え方や話の聴き方があることを知り、受け手とはどうあるべきかをより深く考える機会となりました。これからインターン研修が始まりますが、勇気を出して電話をくれた子にとって少しの間の心の拠り所となるために必要なものが何かを考えながら、学びを深めていきたいです。



*文中の子どもの事例については、秘密を守るため編集したものです *電話を受ける人を「受け手」、受け手を支える人を「支え手」と呼びます

ご寄付をお願いします

せたがやチャイルドラインは、1996年に立ち上げられた「世田谷こどもいのちのネットワーク」の「いじめよ、とまれ!」キャンペーンをきっかけに、1998年に日本で初めて「18才までの専用電話」として開設されました。現在では全国で約70か所のチャイルドラインの仲間たちと連携し、2020年からはこれまでの電話に加えチャットでも子どもたちの声を受け止め始めました。せたがやチャイルドラインの活動継続には、カード・チラシの配布、電話を受けるボランティア育成のための講座の開催、電話の通話料など年間300万円ほどかかります。それに加え新たにチャットの機器の充実も一つの課題です。電話とチャットを通して子どもたちの声をより多く受け止めていけるよう、皆様のご支援とご協力をお願いします。

寄付金控除を受けられます
3,000円以上、おいくらでも大歓迎です
10,000円以上は下の返礼品をお送りします

10,000円～	30,000円～	50,000円～
ボランティアさんによる手作り品/お礼状 *写真は一例です	せたがやチャイルドライン受け手養成講座 講義集/お礼状	ボランティアさんによる手作り品/お礼状 *写真は一例です

*返礼品が不要な方は右の通信欄に「返礼品不要」とお書きください

◆ 寄付金は、所得控除等の寄付金控除の対象となります。所得控除等の寄付金控除をご希望の場合は通信欄に「住所」「氏名」「連絡先」と合わせて領収書添付欄にチェックを入れてください。後日領収書を郵送でお送りします

◆ 「匿名希望」の方は通信欄にチェックを入れてください

払込取扱票	
00	金額
00150-8-279963	千 百 十 万 千 百 十 円
加入者名	備考
社会福祉法人世田谷ボランティア協会	
ご依頼人・通信欄	日 附 印
寄附申込書 せたがやチャイルドライン応援団費 □ 領収書が必要な方はチェックをお入れください。 応援費 1口3,000円×()口 (任意の額でも結構です) 特別応援費 1口10,000円×()口 ※住所・氏名・連絡先をご記入ください。 □ 匿名希望 返礼品が不要な方は振込用紙の通信欄に返礼品不要とお書きください。	
ご依頼人欄に、おとこ・おなまえをご記入ください。(振込番号は0018号) これより下部には何も記入しないでください。	

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	00150-8
加入者名	279963
金額	千 百 十 万 千 百 十 円
ご依頼人	社会福祉法人 世田谷ボランティア協会
料 金	日 附 印
備考	

この受領証は、大切に保管してください。

2022年6～12月の活動報告(つづき)

3つのイベントに参加しました

8月の「せたがやふるさと区民まつり」、10月の「雑居まつり」、11月の「ごきんじよ市」に参加しました。どのイベントでも、手作り品と八女の農産物の販売を通して、せたがやチャイルドラインの活動を発信してきました。

さらに「せたがやふるさと区民まつり」ではスライムづくりと輪投げコーナーを、「雑居まつり」では輪投げコーナーを行い、子どもたちとの交流

も楽しみました。

最後に、手作り品の作り手さん、福岡県八女の農家さん、そしてイベントで設営や当日運営にご協力いただいたボランティアのみなさん、本当にありがとうございました。3つのイベントの売り上げは、111,688円でした！ 通話料や子どもたちに配布するチャイルドラインカードの製作費にあてさせていただきます。



輪投げコーナー



手作り品と八女の農産物



ごきんじよ市

せたがやチャイルドライン事務局

〒154-0002 世田谷区下馬2-20-14 電話：03-5712-5101 FAX：03-3410-3811
メールアドレス：childline@otagaisama.or.jp 担当：小畑・高塚

せたがや
チャイルドライン
ホームページ



ご寄付の方法

1. 郵便局

本振込用紙をお使いください

2. ネットバンキング

<https://www.otagaisama.or.jp/childline/donation>



収入印紙
課税相当額以上
貼付

印

18才までの子どものための電話とチャット



せたがやチャイルドライン
ニュースレター



せたがやチャイルドライン25周年を前に

令和5年が明けました。せたがやチャイルドラインは今年25周年を迎えます。

この間、子どもたちから多くの声をもらいました。子どもたちは25年前と変わらずに「人と言えないこと」「親にも相談できないこと」を話してくれています。「人には言えない」ということは以前からある子どもたちの思いですが、おとなに遠慮して「邪魔しちゃう悪い」とか「疲れているんだからかわいそう」「心配させたら悪い」と気遣っています。子どもたちにもちゃんと権利があるにも関わらず、主張する事に遠慮してしまうようです。人と言えない事をチャイルドラインで言葉にして初めて話して、自分の気持ちを整理しています。

「話して気持ちが落ち着きました」とか「聞いてくれてありがとう」などの感想を知らせてくれます。この「話す」という行動が、子どもの次の行動に繋がることを祈っています。

子どもは自分で解決する力を持っていますが、困ってしまうと八方塞がりを感じてしまいます。そんな時に親ではなくても周囲の大人たちが子どもに気を配り、辛そうにしていたり、あれ？と思う子に「どうしたの？」と話しかけられる人が増えていったらどんなにいいでしょう。

人と人が知り合って、触れ合って、語り合うことをまだまだ大切にしていきたいと思います。

運営委員長 田野 浩美

2022年6～12月の活動報告

第26期受け手養成公開・専修講座が終了しました

2年ぶりの受け手養成公開・専修講座が10月末に全講座終了しました。今年は、公開講座でZoomでのオンライン参加も可能にしたハイブリッド開催としたため例年より多くの方に受講していただくことができ、全参加者は55名でした。その後、受け手を本格的に目指す方には専修講

座を受講していただきました。受講を終えた皆さんは、1月から活動がはじまります。中面に講座を受講された方の感想を掲載していません。ぜひご覧ください。



全員集合

せたがやチャイルドラインでは、受け手、支え手、運営委員の全員が顔を合わせる全員集合を年3回行っており、2022年最後の全員集合を12月に実施しました。今回は学習会として、NPO法人日

本子どもソーシャルワーク協会理事長の寺出壽美さんをお招きし、活動の現場から見えてきたことや子どもの現状をお話いただきました。後半には26期のメンバーとの初顔合わせも行いました。